『一億総貧困時代』

雨宮 処凛/著
集英社

虐待、親の介護から人生が一変。ブラック企業によって、心身ともに破壊され、奨学金返済に支障をきたし、震災や原発事故といった突然の惨事、格差が広がり、超高齢化が進むこの国。「他人事」と思えるか？

『その瞬間まで　富美恵いのちの手紙』

古越 富美恵/著 銀河書房

中学一年、骨癌で片足切断、度重なる入院生活の中、同志社大学に学び、職業人になり「ケースワーカー」として頑張り、闘病生活でつづった作品。
読売新聞で「女性ヒューマンドキュメンタリー大賞」を受賞。
過酷な運命の中、涙を見せず、恩師、友人、知人に出した手紙を終結。
26 歳の若さで乳癌に侵され、32 歳で亡くなられ、最後にニッコリ笑って永遠の眠りについた。
入院生活の中でも、常に人生哲学と、それに基づく実践をたゆまず・・

東

『えほんのせかい　こどものせかい』

東京子ども図書館
松岡 享子/著
文春文庫

“読み聞かせ”をする私たちにとってのバイブル『えほんのせかい こどものせかい』（松岡享子/著 日本エディタースクール出版部 1987.9）が、この程、文庫本で出版されました。文庫本では、東京子ども図書館内の写真も多数掲載されていて興味を惹きます。
読み直す度に、絵本と子ども達に向き合う時にどうあるべきかを導いてくれます。

『グリムのむかしばなし』

ワンダ・ガアグ/編・絵
松岡 享子/訳
のら書店

絵本『ひゃくまんびきのねこ』の作者、ワンダ・ガアグは、小さい子ども達にたくさんグリムのお話しを語ってあげていたそうですが、その語り口調がそのまま文章になったような、お話しの情景が目に浮かぶわかりやすいグリムです。挿絵がとてもかわいくて、手元に置いて一緒に絵を見ながら読んであげたいステキな２冊です♪

いであきこ

おすすめの２冊　　**金子**

『ニッポンのおみくじ』

（鏑木麻矢/ｸﾞﾗﾌｨｯｸ社）

神社でひける従来のおみくじから始まり、まちづくりとコラボしたもの、マスコットおみくじなど、全国 232 種類のおみくじと、豆知識が盛りだくさんの本です。このおみくじ引いてみたいから、ここ行ってみたい・・とも思える奥深い充実した内容です。これをすべてリサーチした著者の熱意に脱帽です。。

『ｱｻｰｼｮﾝ入門　自分も相手も大切にする自己表現法』

（平木典子/講談社現代新書）

人間関係で悩んだ時、本は解決の手段をさがす時の一つの手がかりになります。タイトルの‘ｱｻｰｼｮﾝ’とはより良い人間関係を構築するためのコミュニケーションスキルの一つで、「人は誰でも自分の意見や要求を表明する権利がある」との立場に基づく適切な自己主張のこと。これを心がけて実践ができたらと読み込み中です。

『廃用身』

（ハイヨウシン）

久坂部 洋 著 ／ 幻冬舎

フィクションと思っていたら、あれ論文？ノンフィクション？いや、フィクションだよな・・・と思わせる作品です。
廃用身は、病気で動かなくなり、回復見込みのない手足のことを指す医学用語・・・実際は作者の造語？
デイケアの現場で、心身の回復と介護のあり方から廃用身を切断するという画期的な治療を行うのですが・・・
医師である著者のデビュー作、とはいえ引き込まれます。

『すばらしい黄金の暗躍世界』

椎名 誠 著 ／
日経ナショナルジオグラフィック社

「Web ﾅｼｮﾅﾙｼﾞｵ」「SF ﾏｶﾞｼﾞﾝ」の月間雑誌で掲載されたものを一冊にしたものです。
見た目よりも弱いタランチュラの天敵ペプシスベッコウバチの残酷話や、油田を肉まんじゅうに例えた水資源枯渇の話など、宇宙から虫まで。好きなところをつまみ読みしても楽しめます。

★★　ヤマグチ　★★

『横道世之介』

吉田修一　毎日新聞社

大学進学のため上京した世之介。大丈夫？と心配になってしまう四月から少しずつ東京が居場所になっていく三月までが月ごとに描かれています。 十数年先のことも。実家の母親とのかみ合わない電話での会話が微笑ましくて好きな場面のひとつです。

『ことばはいらない』『ぼくのともだち』

ジョンソン祥子　新潮社

息子の一茶くんと柴犬マルのフォトエッセイです。優しい眼差しからおしゃべりが聞こえてきそうです。ミシガン州の自然の風景も素敵です。

やなぎさわ

【日航 123 便墜落の新事実】【524 人の命乞い】

青山 透子 / 著　河出書房新社　　小田 周二 / 著　文芸社

３２年前の事故について原因、真実を追求する関係者の、かなりショッキングな本。墜落して直ぐに目撃情報が沢山入っていたにもかかわらず、かたくなに違うところを捜索していた点・乗客の証言から圧力隔壁破壊説があり得ないという疑問など、確かにおかしいと思われて仕方ない。報道に対する見方をあらためて考えさせられる。もっと広くいろんな方に知ってほしい本です。
SNS が発達している今なら、事態は違っていたかもしれない。犠牲となった方たちのご冥福を祈りながらも、何とかならないのか・・・と。

（S.H）

『働きたくないイタチと言葉がわかるロボット』

～人工知能から考える「人と言葉」～
川添 愛/著　朝日出版社

私たちは 実際に発する言葉以外に「推し量る」ことを普通にやっている。余白の中にある「気持ち」を推し量っている。ではロボットを相手にしたとき 私たちはどれほど言葉を足して説明しなければならないのだろう。「言葉」って とくに「日本語」って すごいなぁ と思う。

『勉強の哲学』
～来るべきバカのために～

千葉 雅也/著　文藝春秋

「勉強」の捉え方も人それぞれ
「なぜ勉強するのか」も人それぞれ。
自分で考えて掴み取っていくものと
他人が掴み取ったものを後からなぞっていくのと どちらがタイヘンなんだろう…と近頃考えました

O林

おおいけ　かずみ
冬の紹介本

『クリスマスがちかづくと』

斉藤倫／作　くりはらたかし／画
福音館書店

セロはクリスマスが大嫌い。
クリスマスが近づくと、母親はデパートの仕事で忙しく、父親はどこかへ出掛けたきり帰って来ません。
父親の驚くべき正体を知ってから、セロの生活も変わっていきますが・・・悲しみと優しさ、クリスマスの本当の心が染み渡る児童書です。

『クリスマスを探偵と』

伊坂幸太郎／文
マヌエーレ・フィオール／絵
河出書房新社

クリスマスイブの夕方、探偵の男はある男を尾行していた。どうやら浮気現場を調査しているようだ。というふうに、物語は始まるが、こちらの話も主人公が子どもだった時のクリスマスエピソードがキーワードになっている。
最後はさすがミステリーの魔術師伊坂幸太郎って感じで、大人向きの絵本です。

『君たちはどう生きるか』

吉野源三郎／原作　羽賀翔一／漫画

主人公の少年はおじさんにコペル君とあだ名をつけられます。常に科学的なものの見方をし、思慮深いので、コペルニクスのようだと。
８０年前の児童文学書ですが、ちょっと哲学的なのでマンガがあるおかげで読みやすくなっています。

毎日寒い日が続いています。まだ雪があまり降らないのが救いですが本で見る雪の世界は素敵です。

雪の写真家ベントレー
ジャックリーン・ブリッグズ・マーティン文
メアリー・アゼアリアン絵　千葉茂樹訳

時は１９世紀末、子供のころから雪が大好きだったウィリーは、顕微鏡で見た雪の結晶に魅せられ、農業の傍ら雪の写真を撮り続けます。ついに世界的な雪の写真家としてたたえられたのですが…

雪は天からの手紙
中谷宇吉郎エッセイ集
池内了　編

中谷宇吉郎は雪や氷の研究を精力的にする傍ら多くのエッセイや社会評論を書いた実験物理学者です。実験に基づいた文章はすんなりと頭の中に入ってきます。この本は研究のことだけでなく彼が巡り合った科学者のこと、身の回りの科学などについて書かれたエッセイ集です。

寒い冬、温かいお部屋の中で科学しませんか？

samie

テディが宝石を見つけるまで

パトリシア・マクラクラン著
こだまともこ訳

これはアイリッシュ・ウルフハウンド犬のテディが宝石（ジュエル）を見つけるまでのおはなし。

ある冬の日、猛吹雪の中で男の子と女の子の兄妹と出会ったテディは、近くの山小屋に二人をつれていきます。
そこは詩人シルバンさんとテディが暮らす家。
でもシルバンさんの姿はありません。
吹雪がやむまでの数日間
詩人と子どもだけに話しができるテディと２人の子どもたちが、それぞれに抱く不安と向き合いながらも、愉しく暮らす日々の物語。
テディはシルバンさんの行方を案じながら
兄妹は両親の愛が確かなもの？テディとの愉しい生活はいつか終わってしまうの？と。
力強く生き抜こうとする健気な思いが胸を打つ
宝石のような一冊です

T. R

★10 月の“ほんのひととき”で紹介された本

『日の名残り』
カズオ・イシグロ/著
土屋政雄/訳　早川書房
ノーベル賞受賞作家作品読んでみました！

『ドラえもん短歌』
枡野 浩一/選　小学館
元ネタを知っているとクスッと笑える！

『動的平衡』
生命はなぜそこに宿るのか
福岡 伸一/著　木楽社
私たちの体は、1 週間で中身が新しくなっている！

『きのこ　ふわり胞子の舞』
埴 沙萌/写真・文
ポプラ社
胞子の写真が美しい！

『ノミのジャンプと銀河系』
椎名 誠/著　新潮社

『もしもトイレで地震にあったら』
やざき せうざう/著
文芸社
え！どーすればいいの～！？

『奇跡の教室』
エチ先生と『銀の匙』の子どもたち
伝説の灘校国語教師・橋本武の流儀
伊藤 氏貴/著　小学館
今こそ大切にしたい本物の授業です！

『足元の小宇宙』
埴 沙萌/著
NHK 出版

『春の呪い』
(ID コミックス ZERO-SUM コミックス)
小西明日翔/著
一迅社

月刊『エアライン』
イカロス出版

ほんのひととき
活動風景♪

facebook でも情報発信しています！

ほんのひととき　冬号　2017 年 12 月 28 日発行

発行者　ちーむ BJ（ブックジョイ）

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

「本が好き！」
「この本、誰かに教えたい！」
「いつも同じような本ばかり選んじゃう・・」
そんな方はぜひお茶を飲みながら
おしゃべりしましょう！

「ほんのひととき」は、オススメの本（小説・マンガ・絵本などジャンルを問わず）を持ち寄り、紹介しあう集まりです。どなたもお気軽にご参加ください。
参加費無料。申し込み不要。お待ちしています！
（推し本１～3 冊持参してください）

次回日程　平成 30 年 1 月 21 日（日）・ 2 月 18 日（日）
午後 3 時～5 時
市民交流センター　会議室
（小諸市相生町　こもろプラザ 2 階）

BJ（ブックジョイ）は、本と人、もの、地域を繋ぐ活動を通し、読書推進・社会教育・文化芸術の振興等に寄与する市民活動グループです。
問い合わせ　090-1865-1485　大林晃美